

1-7

嚥下機能と発語機能、回復への働きかけ

口腔内を氷刺激による口腔ケア

氷刺激

口腔ケア

特別養護老人ホーム・きく

看護師 樋口 綾子

真鍋 三香子

東京都江戸川区鹿骨3丁目16番6号

木島 知歩

TEL 03-3677-3030

kyouwakai3030@orion.ocn.ce.jp

FAX 03-3677-3081

<http://www11.con.ne.jp/~kyouwa/>

今回の発表の施設
またはサービスの
概要

当施設の最大の取り組み課題は

- ① 排泄ケア
- ② 口腔ケア

〈取り組んだ課題〉

平成14年発足当初より、要介護度4,5の方が多く入所され、必然的に個別ケアに取り組む事となりました。

①排泄ケア②口腔ケアの課題の中から、特に当施設では嚥下障害、流涎、言語障害、傾眠等の問題点から、口腔ケアがどうしても必要となった利用者13名(約3割強)チームで取り組みました。

〈具体的な取り組み〉

- ① 誤嚥性肺炎予防…気管切開手術を脳梗塞発症時に試行しているK様。他、4.5名危険度大。
- ② 流涎の改善、対象者3名
- ③ 言語障害の改善、対象者5名
「水、強酸性水の中にスポンジ2×3cm大の物を入れ、1日1回、昼食前に1～2分。状態の悪い方、毎食前に口腔内広範囲に刺激する。」

〈活動の成果と評価〉

- ① K様、M様、S様の場合、2～7日目位には、嚥下する時間短縮(ミキサー食～極刻み食)が見られる。
- ② 流涎の改善…S様、K様、N様の場合、2～7日目には80～90%改善。
- ③ 発声、発語を促すK様の場合、5～7日目位に小声で発語認め、20日後、夜間排泄ケア時「どうも有難う」の発語認める。T様、1ヵ月後位より「あぁ」→「おはよう」「有難う」の発語有り、徐々に歌詞カード見て「もみじ」「北国の春」など唄えるようになる。

〈今後の課題〉

改善した事にスタッフ一同喜び、一寸気を緩めると、すぐに悪化してしまうので、継続して実施する事が誤嚥性肺炎の予防と生活機能の向上に向けての課題と認識し、活動していきたい。

〈参考資料など〉

ある雑誌より、血管が冷やされると収縮し「プロスタグランジン」という物質が局所で生まれます。この物質には収縮してしまった血管を拡張する働きがあります。